学校番号	3018

令和２年度　**芸術**　科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	（　1　）単位	年次	（　3　）年次
使用教科書	東京書籍「書道Ⅲ」						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書の伝統と歴史への理解をより一層深め、書体の特色を生かした自分らしい表現を追求しよう。
・書の美しさの多様性を理解し、作品の様式美を鑑賞しよう。
・現代に即した効果的な表現を工夫しよう。
・主体的構想に基づく個性的創造的な表現を追求しよう。
・生涯にわたって書を鑑賞、愛好する心を育てよう。
・芸術系大学を目指す生徒に対応します。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の伝統文化への関心をより一層深め、それに基づく書の表現をより創造的なものとするため、主体的に考えて取り組む。	書体の特色を生かしながら、自らの意図に基づいて構想し、創造的な書表現を追求している。	創造的表現のために、効果的な書表現の技能を身に付けそれを追求している。	書の伝統と文化についての理解を踏まえ、書芸術の価値を考え、書の美しさを感受する力をより高める。また背景となる諸文化との関連を知り、書文化の現代的意義を深く理解する。
評価方法	観察 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間	漢字の書(五体) 仮名	・少字数作品の制作 ・仮名作品の制作	○	○	○		a:漢字や仮名一字の形を追求し、用具用材全てに気を配り表現を研究して意欲的作品に取り組む。 b:人々の心を動かす作品への構想を主体的に考え、工夫する。 c:創造的書表現のため、一層効果的な技法を身に付けて表している。 d:書の伝統や諸文化との関わりについて考え、書への理解と鑑賞の深化を図る。	観察 作品集 展示作品
後期期末	漢字の書(五体) 漢字仮名交じりの書 実用書	・手紙文 ・実用書 ・記念作品制作	○		○	○	a:実用書に関心を持つ。作品の文字選定、構想、創作の全体について意欲的に取り組む。 b:各書体の良さを感じ取り、作品の意図を明確にして表現を工夫している。 c:創造的書表現のため、一層効果的な技能を身に付け、表している。 d:互いの作品を鑑賞し、その良さを創造的に味わっている。	観察 作品集 展示作品

※　表中の観点について　　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。